

興福寺・東大寺 春日大社map

東大寺盧舍那仏像(るしやなぶつぞう)、通称奈良の大仏さま。8世紀前半 聖武天皇の時代は、災害や争乱、天然痘などの疫病が頻発していた。天皇は仏にすがる思いで、全国に国分寺を創建し、総国分寺として東大寺を造営した。752年に開眼供養会(魂を天皇、上皇を含めた1万数千人が参列し、開眼を見守ったという。この時、開眼導師を務めたのはインドの高僧だった、というのが有名な話。



藤原鎌足とその子不比等(ふひと)ゆかりの寺院。都が京へ遷都したのちも絶大な勢力を誇り、室町時代まで大和国を支配し続けた。1467年に発生した応仁の乱にも興福寺別当(最高責任者)は大きく関わっている。

二月堂では毎年3月1日~14日に、修二会(お水取り)が行われる。修二会とは仏教の法会の一つで、過去の罪を懺悔し、天下泰平、五穀豊穡を願うもの。1000年以上前から行われてきた歴史ある行事で、修二会のシンボリック行事「お松明(二月堂の舞台上で火のついた松明を振り回す)」にはかなりの見物人が集まる。

平家による焼討後、再興に伴い運慶・秋鷹らによって造られた金剛力士像が見もの。

藤原氏の氏神を祀る神社。氏神様が白鹿に乗ってやって来たという伝説から、鹿は神の使いとされ大事にされている。

2018年に創建1300年を迎えた。

